

# 絆を作るにぎわい

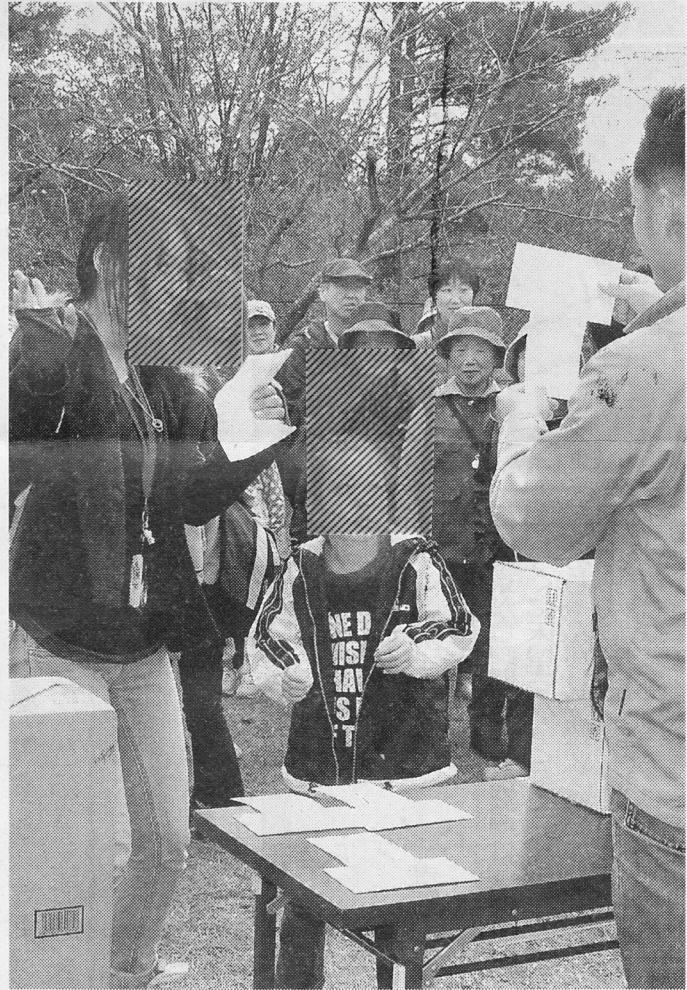
盛岡市松園地区の地域住民らの団体は30日、地区内でウォークラリーとフリマ・味覚市を初開催した。家族連れら数百人が訪れた。主催者、参加者ともウォークラリーで地区の魅力や快適な生活空間を再発見。主催者はフリマなどを通じて地区内の交流やにぎわい作りのヒントを探った。今後も地域主体で仲間作りやイベントに挑戦する考え。

総合型地域スポーツクラブを展開する「まつそのスポーツクラブ」(浅沼道成理事長)と松園団地移住者2世を中心に活動する松園地域まちづくりセンター(藤澤大祐代表)が共催。松園地区公民館(嶋田健一館長が協力)、フリマ・味覚市の会場となった。



大勢でにぎわったフリマ

## 松園でフリマ・味覚市



豪華賞品目指し、地域の魅力を探ったウォークラリーの参加者

26組、地区内外から約90人が参加。4、5人1組で公民館を出発。コマ図を見ながらコースを探し、チェックポイントでクイズに答え、標準タイム90分以内が一番近い組が1位となった。約1時間で公民館に戻ってくるチームもあった。

が当たる抽選会が用意された。同市小鳥沢の公務員、門間剛さん(35)は息子の貴幸ちゃん(6)と保育園の友達家族で参加。「地区に越してきて3年。いつもは自動車で通るので見慣れないところもあった。普段歩く機会がないが、ちよつと紅葉もき

れたいし、きれいで暮らしやすいまち」と話していた。

参加者はその後もフリマと味覚市を楽しんだ。フリマは24区画で古着や雑貨、クラフト作品が並び、人でごった返した。味覚市は地区内外の15店舗が参加。宮古市魚菜市場が海鮮焼きそばなどを販売したほか、子どもたちが地区にほしいと希望するファストフード店も出店。正午前に完売する店もあった。

同市東松園3丁目の「喰い処かかし屋」は、煮込みを販売。曇天の中、訪れた住民が楽しめるのが一番。参加した人が喜び、また開催したくなるようなものを、みんなが負担にならない範囲で取り組んでいきたい。一緒に活動してくれる仲間も増やしていきたい」と次の企画にも目を向ける。来春の桜祭りなど構想は尽きない。

### 住民が手作りイベント開催

### 地域の交流に期待

同市東松園3丁目の「喰い処かかし屋」は、煮込みを販売。曇天の中、訪れた住民が楽しめるのが一番。参加した人が喜び、また開催したくなるようなものを、みんなが負担にならない範囲で取り組んでいきたい。一緒に活動してくれる仲間も増やしていきたい」と次の企画にも目を向ける。来春の桜祭りなど構想は尽きない。